

撫養鹽務局

三里出張所之部

撫養鹽務局三里出張所之部

第一章

鹽田位置、方位及附近ノ地勢、地形

一 鹽田ハ揚濱式ニシテ俗ニ鹽濱ト稱シ東ハ香美郡吉川村ヨリ西ハ高岡郡新居村ニ至ル延長十里餘ノ間ニアリ其中ノ廣キハ六十間狹キハ二十間ニ過キス東南太平洋ニ面セル傾斜ノ度多キ天然ノ砂濱ニシテ風浪ヲ防止スルノ設備更ニナケレハ時ニ怒濤ノ爲メ其地盤ニ廣狹ヲ來シ一定不動ノモノニアラス西北ハ山岳重疊シ濱ニ沿ヒテ丘陵起伏シ附近ハ細砂ヨリ成レル畑地ニシテ土地高ク日當リ良ク最モ乾燥シ易シ但新居村、仁西村ノ中間ニ仁淀川、吉川村、三島村ノ間ニ物部川アリテ此等ノ村ハ山水ノ後數日間潮ニ鹽分薄クシテ採鹹シ能ハサル時期尠シトセス

附記 吾川郡諸木村濱ニ於テ數年前迄十數名ノ製鹽家アリ花莖業盛ナリシ爲メ廢止セシモ現今二名ノ製造許可ヲ與ヘタルモノアリ尙宇佐村ニ於テ新規ニ器械ヲ製シ潮水ヲ以テ直ニ製鹽ヲナス試驗中ニ屬スルモノアリ

第二章 鹽業ノ沿革

記錄ノ存スルナク古昔創業以來ノ事蹟詳ナラスト雖器具、器械、製鹽操作等ニ就テ著シキ改良ヲ加ヘタルコトナク現時ト大同小異ナリ藩政時代ニ於テハ一村ニ燒釜幾何ト制限シ燒釜鑑札ヲ下付シタルモノニシテ其村ニ永住ノ漁民ニ限り製造權ヲ與ヘタルモノ、如シ其實例ヲ舉クレハ新居村ニ於ケル現今ノ釜數ハ百四十餘ナルモ舊時ハ四十三釜ナリシト云フ之カ保護ニ就テ平時ハ記スヘキ事項ナキモ一朝風浪ノ爲ニ鹽濱ノ災害ニ遇フヤ其罹災ノ大小輕重ニヨリテ金額ニ等差アリ一定シ難キモ概ネ五百圓或ハ三百圓ヲ無利息年賦返納ノ定メニテ貸付ヲナシタル例アリ且鹽ノ販賣ニ就テハ製鹽者又ハ其家族カ一日間ニ往復シ得ラル、附近ノ地ニ撒鹽ニテ賣捌キタルモノニシテ其樹目ノ如キ鹽ニ限り八合入ノモヲ一升トシテ用フル慣例ナリシト云フ其他ノ需用ニ就テハ高知市其他ニ於ケル仲買商カ播州、阿州等ヨリ取引ヲナシタルモノナリト云フ

第三章 製鹽方法

甲 鹹水採收

一 鹽田ノ種別 鹽田ハ總テ揚濱式ニシテ一軒前ノ面積ハ通例五畝歩ヲ限度トセルモ往々八畝歩ヲ有スルモノアリ鹽田中ニハ溝渠倉庫其他建造物トシテ見ルヘキモノ更ニナク單ニ鹹水ヲ採收スルニ止マルモノナリ

二 堤防 該當事項ナシ

三 溝渠 同上

四 撒砂(當地方俗ニ鹽砂)

ヲ浸出シテ鹹水ヲ採收スルニハどう及ヒがわト稱スル無底圓筒ヲ重ネテ浸出ヲ行フモノナルカ其ノ配置ハ圖ニ示セル如キ形狀ニ於テ行フモノナリ其作業ニ就テハ(別圖參照)どうヲ最下位ニ置キたれどもどうノ上部ニ置キ是レニ(二)(四)(五)ノがわヲ組ミ立テツ、鹽砂ヲ入レ最後ノ(五)ニ終リ是レニ潮水(をほしほト稱ス)四荷(一荷一斗)ヲ注キ鹽砂中ニ結晶セル鹽分ヲ浸出シ滴下スル處ノ稀薄鹹水三荷ヲ得テ次ノ場所(二)ノ地位ニ更ニ前ノ裝置ヲナシテ浸出液三荷ヲ注クコト前記作業ノ如クナラシテ其ノ初メニ滴下セル一荷ハ即チ鹹水(眞潮或ハ本垂)ニシテ殘餘ニ滴下スルモノハ雨垂ト稱シ三回目ノがわニ使用スルコト前ノ如クナリ

五 鹹砂貯藏裝置 該當事項ナシ

六 鹹水輸送ノ方法

ハ第四項ニ於テ採收セル鹹水(眞潮)凡ソ一斗八升ヲ入ルヘキ荷桶ヲ以テ適當ノ鹹水貯藏場即チ自宅附近製鹽場迄人肩ニ依テ別圖ノ如キ荷桶ニテ運搬スルナリ

七 採鹽用器具ノ名稱 大小、構造、効用ノ方法ハ五ニ是ヲ列記セン(圖面參照)

(一)つりはぜ 本器ハ鹽田中ノ處々ニ鹽砂ヲ集メタルモノ(つか)ヲがわニ移入スルトキニ使用スルモノナリ

(二)ならし又ハえぶり 本器ハ鹽田面ニ採鹹用細砂ヲ撒布シテ之ニ潮水ヲ撒布スル以前ニ當リ其ノ凹凸ヲ平面ナラシメ

潮水撒布ノ平均ヲ保ツノ目的ニ使用スルモノナリ

(三)さらえ 本器ハ鹽田ニ細砂ヲ撒布シ之ヲならしヲ以テ平面トシ次ニ潮水ヲ撒布シ一兩日間乾燥ノ後鹽分ノ細砂ニ附

着セルモノ即チ鹽砂ノミヲナルヘク鹽分未着細砂ノ混入セサル様注意ヲ加ヘテ收集スルノ用ニ供スルモノナリ

(四)半切 本器ハ木製ニテ鹽田面ニ潮水ヲ撒布スルトキ海岸ヨリ汲ミ來ル潮水ヲ集メ置キ是ヲひしやくヲ以テ撒布スル

ノ用ニ供ス

(五)ひしやく 本器ハ木製ニテ半切内ノ潮水ヲ撒布スルノ用ニ供シ其容量一升前後ナリトス

(六)つかはね 本器ハ木製ニシテがわニテ鹽砂ヲ浸出シタル(之ヲ鹽くをト云フ)ヲ更ニ鹽田面上ニ撒布スル爲メニ用フ

ルモノナリ

(七) 濱起シ 本器ハ木製ニシテ箇ノ分部ハ樫ノ樹ヲ以テ作りタルモノニシテ鹽田カ雨或ハ大浪ノ爲メ細砂ノ流失セシ場

合ニ鹽田ヲ掘リ返シ更ニ鹽田作業ヲ營ム爲メ使用スルモノナリ

(八) 採鹹用器具ノ新調費及保存期間ハ左ノ如シ

品目	員數	單價	總價	保存期限
どわう	四	一、五〇〇	六、〇〇〇	五十ケ年
がわ	四	三、〇〇〇	三、六〇〇	全
たご	四	〇、四〇〇	一、六〇〇	六ケ月
つは	二	二、〇〇〇	四、〇〇〇	五ケ年
つは	五	六〇〇	三、〇〇〇	五十ケ年
つは	一	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五十ケ年
濱起	一	四〇〇	四、〇〇〇	二十ケ年

九 鹹水貯藏裝置

ハ通例一戸前ニ凡ソ十二石ヲ入ルヘキ桶三個ヲ土中ニ埋メ之ニ便宜小屋ヲ設ケテ雨露ヲ防クカ如

キ單純ナル裝置ニテ三里村濱ニ於テハ濱ニ凡ソ三四石ヲ入ルヘキ桶ヲ埋メ置キ是ニ鹽田ニテ得タル鹹水ヲ一時貯藏シテ數日ノ後其ノ清澄ナルヲ認メ上澄液ノミヲ荷桶ニ汲ミ込ミテ前記ノ鹹水貯藏桶ニ移シテ貯フルヲ常トス

十 鹽田地盤ノ構造及性質

當所管内鹽田地盤ハ總テ細砂組織ニシテ上層ニ位セル四五寸ハ通例直徑〇、〇五ミリメ

ートル前後ノ大サニシテ色澤青灰色ヲ呈シ結晶ハ六角形又ハ四角形、柱狀、針狀等ニシテ圓形、隋圓形ヲナスモノ少ク其下層一尺ニ至リテハ〇、五ヨリ一、三ミリメートルニ至ルモノアリテ漸時下層ニ向フニ從テ粒徑其ノ大サヲ増スヲ以テ通常トナスト雖粘土ヲ含有スルコト尠ナク又岩石ヲ顯スコトナシ

十一 撒砂ノ種類

第十項ニ述ヘタル如ク種々ナル形狀ヲ呈シ採鹹ニ適スト雖モ大浪又ハ降雨ノ爲メニ細砂ヲ流失セ

タルトキハ濱起シヲ以テ鹽田修理ノ作業ヲ營ムトキハ下層部ニアル細砂ハ更ニ上部ニ顯ハレテ鹽田用撒砂トシテ使用ニ堪ラレユルモノトナスヲ以テ(時トシテハ他ヨリ細砂ヲ運搬シテ撒砂ノ欠乏ヲ補給スルコトアリ)鹹水採收ニ不便ヲ感スル如キコトナシト雖其ノ粒徑ノ餘リニ細少ナルハ鹹水濾出甚タ緩漫ニシテ一戸前ノ鹽田ニ於テ五人ノ勞働者カ作業ヲ經營ス

ルトキ四組ノがわニテハ浸出遲キカ故ニ空シク時間ヲ費スコトアリ之ニ反シ粒徑ノ粗大ナルモノニアリテハ其ノ浸出甚タ速カナリト雖モ鹹水採收ノ量ハ細砂粒ニ比シ同一ナルモ濃度ヲ見ルニ稀薄ナルヲ免レサルヲ常トス故ニ細粗兩砂ヲ混和シテ撒布スルトキハ前記ノ憂ヲ除クヲ得ルナリ

十二 撒砂ノ撒布量 四季ヲ通シテ同一ナラス今鹽出一坪ニ對スル撒布量ヲ月別ヲ以テ示セハ左ノ如シ

月	順	撒砂撒布量	月	順	撒砂撒布量	月	順	撒砂撒布量
一	月	七升	五	月	八升五合	九	月	一斗
二	月	七升	六	月	八升五合	十	月	一斗
三	月	八升	七	月	一斗	十一	月	七升
四	月	七升	八	月	一斗	十二	月	八升

以上ノ月別表ニ由ニレハ七、八、九、十ノ四ヶ月間ハ撒砂撒布量他ノ月ニ比シテ多量ナルハ此時季ニ於テハ乾燥ノ度極メテ大ニシテ殊ニ晴天連日ニ至ルノ季節ナレハ一回鹽砂ヲ浸出シテ殘餘ニ鹽分ヲ含ム砂即チ骸砂ノ部分ハ更ニ翌日ニ於ケル採鹹ノ目的ニ再ヒ鹽田ニ撒布スルモノナルカ此ノ鹽くそヲ撒布シタル濱ハ一名かすどノ濱ト稱シテ同一ノ勞力ヲ費スニ鹹水ノ濃厚ナルヲ得ルコト多量ニテ鹽業者ノ喜フ處ナルモ一朝降雨ニ際會シテ鹽分ヲ流失セララル、コトアリテ更ニ鹽分附着ナキ撒砂トナルナリ是ヲ稱シテ新濱ト云フ一、二、十一、ノ三ヶ月間ハ比較的太陽熱弱ク霜多ク且ツ無風ノ季節ナレハ撒砂撒布量モ尠ナシト雖モ三、四、五月ハ毎年晴天勝チニテ一、二、十一、月ニ比スルニ稍々其ノ乾燥宜敷ク六月ニ及ヒテハ他ノ月ニ比シ撒砂撒布量多キカ如ク思ハレトモ梅雨ノ季節ナルヲ以テ否サルナリ十二月ニ及ヒテハ太陽熱ハ微弱ナリト雖モ北風烈シク吹キ來ルヲ以テ乾燥速カナルカ爲メ撒砂撒布量モ稍々多量ナリトス

十三 撒砂ノ乾燥時間 季節ニ由リ大差アルヲ以テ之ヲ晴天時、曇天無風時ノ二種ニ分チテ月別表トナシテ示セハ左

ノ如クナルカ晴天時ト雖モ西、東、風吹クトキハ殆ント曇天無風時ニ於ケルノ時間ヲ要シ曇天ナルモ北風吹クトキハ晴天ニ於ケル時間ヲ以テ乾燥スルモノト知ルヘシ

鹽田撒砂乾燥時間月別表

月	順	晴天時	曇天無風時	月	順	晴天時	曇天無風時	月	順	晴天時	曇天無風時
一	月	六時間半	八時間	五月	月	四時間半	六時間半	九月	月	四時間半	六時間
二	月	五時間半	七時間半	六月	月	上六時間	上六時間	十月	月	全上	全上
三	月	全上	七時間	七月	月	全上	全上	十一月	月	六時間	九時間
四	月	全上	六時間半	八月	月	全上	全上	十二月	月	五時間半	八時間

十四 撒砂浸出装置

鹽砂ヲ浸出スル爲ニハ、どう一組ニ注入スル海水ノ量ハ平均四斗ニシテ得ル處ノ鹹水ハ一斗七八

升ヲ通常トシ稍濃厚ナルヲ欲セハ一斗四五升ヲ採收スルコトアレトモ一斗八升ヲ採收スルヲ以テ通常トス

十五 海水、鹹水及もんだれノ性質

海水ノ性質中當所管内ノ海岸ニ於ル比重ハ母氏三度二分ヲ示シ温度ハ其ノ季節ニ

由テ差アリト雖時季ニ於テハ攝氏十三度ナリ

化學的成分トシテハ、鹽化曹達、硫酸苦土、硫酸石灰、鹽化加里、炭酸苦

土等ヲ含ムモノナリ鹹水ノ性質モ稍海水ニ同シク比重ハ母氏十八度ヨリ廿二三度ヲ示シ化學的性分ハ海水ト異ナルコトナ

シト雖各々含有量ハ其差著シキヲ認ムルモノナリ

十六 海水引入装置

當所管内鹽田ハ總テ揚濱式ニシテ海水ヲ汲揚クルニハ荷桶ヲ以テ海岸ニ出テ人肩ヲ以テ潮ノ引

カントスルトキニ荷桶ヲ横轉シテ汲ミ込ムモノナリ

十七 海水貯溜池

該當事項ナシ

十八 鹽田一戸前ニテ一ケ年間ニ採收スル鹹水ノ容量

百一石前後ニシテ月別表ヲ以テ示セハ左ノ如シ

鹹水採收量月別表

月	順	採收容量	平均比重	月	順	採收容量	平均比重
一	月	七石	八度	七月	月	七石	七度
二	月	七石	八度	八月	月	十石	七度
三	月	八石	九度	九月	月	十石	八度
四	月	七石	九度	十月	月	十石	九度
五	月	八石	十度	十一月	月	七石	十度
六	月	八石	十一度	十二月	月	八石	十度

十九 鹽田一戸前採鹹ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數、賃銀等 元來當地方ニテハ鹽田作業ノ爲メニ人夫ヲ雇入ル、

必要ヲ認メサルカ故ニニ其種類、名稱、員數、賃銀ヲ擧クルコト能ハサルモ採鹽ヲ專業トナス者ニ付テハ一日平均何程ノ勞働賃銀ニ相當スルノ收支計算ヲナスハ最モ必要ナルモノナレハ左ニ男女一ケ年間ニ採鹽ノ爲メ費セシ日數ヲ算出シテ一人何程ノ賃銀ニ相當スルカヲ見ルト雖當地方製鹽家ハ決シテ鹽等ノ爲メ人ヲ雇入ル、コトナク總テ當業者ノ家族子弟ノミニテ作業ヲ經營スルモノナレハ夫ハ撒砂ノ撒布ニ從事シ妻ハ鹹水ノ運搬、鹽砂ノ浸出ヲ行ヒ長男ハ潮水ノ運搬次男ハ潮水ノ撒布ヲ行フカ如ク各自得意ノ業務ヲ分擔シツ、作業ヲ經營スルモノナルヲ以テ其ノ賃銀ハ更ニ一定セス今左ニ其ノ就業日數ノ概況ヲ示サン

男女別	就業日數	總日數	一ケ年間ノ純利益
男	一一〇	二二〇	八七、一三三
女	一〇〇	二二〇	八七、一三三
			一日平均ノ收入卅九錢強

二十 鹹水採收時季及風位トノ關係 鹹水採收ノ最盛ナルハ七、八、九、十ノ四ヶ月ニシテ十月ノ如キハ稍々大熱陽

微弱ナレトモ北風多ク撒砂ノ乾燥スルコト頗ル速カナルカ爲メ同一勞動ニテモ多量ノ鹹水ヲ得一月ヨリ六月ニ至ルノ間ト雖モ不適當ナル季節ト云フヘカラサルモ總テ當地海岸ニテハ東西ノ風ハ濕氣ヲ含ム爲メ撒砂ノ乾燥ニ要スル時間比較的ニ永キカ故最好季節ト認メ難シ要スルニ四季ヲ通シテ北風ハ總テ乾燥速カナルヲ以テ採鹹ニ適スルモノナリ

二十一 一ケ年間ノ採鹹平均日數 一二百十六日即チ一ケ月平均十八日ヲ以テ通例トスルモ本年ノ如ク天候不良ノ際

ニハ平均採鹹日數ハ十八日ヲ出ルコト僅少ナリ此ノ内持濱、準備濱日數等ハ各別ニ記載スルコト能ハス降雨ノ引續クトキニハ晴天トナル迄ノ間ハ空シク時日ヲ消費スルモノナルヲ以テ之ヲ精密ニ示シ難シ

二十二 一ケ年間ニ於ケル平均鹹水採收量 一二百五六十名ヲ以テ通例トス然レトモ是レ天候ニ依ルモノナレハ到底

其ノ精確ヲ保シ難シト雖通常ノ採鹹量トシテ大差ナカルヘシ

二十三 備準濱及持濱 當所管内鹽田ニ於ケル採鹹準備トシテハ風雨大浪ノ後ニ於テ撒砂ノ流失シタルヲおこしヲ以

テ更ニ作業ヲ營ミ撒砂ヲ下部ヨリ求メサルヘカラサルト大浪ノ爲メ撒砂ヲ洗ヒ去ラレ殘レル指頭大ノ小石ノ散在セルヲ除クニ要スル仕事ニハ多大ノ時間ヲ費サ、ルヘカラス是レ當地方鹽田一般ノ一大欠點ニシテ一方ハ太平洋ニ面セル海岸ナル

タメ強風又ハ烈風ノ吹至ルコトアランカ忽チ怒濤ハ苦心ニ苦心ヲ重ネタル鹽田ヲ容赦ナク風浪中ニ卷キ込ミテ當業者ノ事業ヲ水泡二期セシムルコト多シトス斯ノ如キ場合ニ於ケル鹽田作業ハ日常ニ倍セル勞力ヲ要シ著シク鹹水採收量ハ減少スルモノナリ以上ノ如ク風浪ノ爲メニ鹽田作業ヲ營ムヲ荒濱ト稱スルナリ

二十四 鹹水採收ニ關スル其他ノ事項 北風強ク吹キ大陽熱烈シキ時ハ俗ニこをるト稱シさらえヲ以テ砂寄ヲ行フトキバリバリト云フ音ヲ發スル如キハ充分鹽分附着シ濾出スル處ノ鹹水モ濃厚ニシテ隨テつかノ數モ僅少ニシテがわニ入ル、モ其容積大ナレハ同一勞働ノ下ニ多量ノ鹹水ヲ得ヘシト雖東南ノ風吹ク時ハ稍々こをりノ度宜敷ヲ得ルト雖暫時ニシテ水分ヲ含ミ爲ニ濃厚ノ鹹水ヲ得難クつかハ一ツノかわニモ多ク入ルヲ以テ無用ノ勞働ヲナサ、ルヘカラス

乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹 別圖ニ之ヲ示ス

二 釜及竈 當所管内ノ釜ニハ單ニ結晶釜ノ一個ヲ有スルノミニシテ圖ニ示スカ如キモノニテ通常鐵釜ヲ用ヒ俗ニ十ニ枚びけ、十三枚びけト稱シ直徑二尺八寸内外ナリ十三枚びけト稱スルモノニテ鹹水三斗九升ヲ容レ十二枚びけニテ鹹水三斗四升ヲ容ル、モノナルカ此ノ十二枚、十三枚びけト云フノ理由ヲ質スニ單ニ鑄形ノ數ヲ稱スルモノニ過キス又竈ノ構造ハ日常個人ノ使用スヘキ竈ヲ地上ニ粘土ヲ以テ築キ上ケタルモノナリ

三 石釜 該當ノ事項ナシ

四 鹹水輸送裝置 鹹水ヲ釜屋ヘ輸送スルハ荷桶ニテ人肩ニ由リ一釜分宛運搬スルモノナリ釜屋中ニ鹹水貯藏用ノ桶ヲ設置スルモノナク總テ一釜毎ニ荷桶ニテ運搬シ來ルモノナリ

五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀ハ別圖ヲ以テ是ヲ示ス
六 釜其他煎熬用器具類ノ新調費修繕費及保存期限ハ左ノ如シ

名	稱	新調費	保存期限	名	稱	新調費	保存期限	名	稱	新調費	保存期限						
結晶釜	三、〇七〇 ^円	十年	たご	八〇〇 ^円	十年	たれこし桶	三〇〇 ^円	十年	せせり	一五〇	五年	泡取	〇四〇	一ヶ月	火箸	一〇〇	三十年
杓	〇八〇	三年	鹽ふご	一五〇	二年												

七 燃料ノ種類、名稱、產地等

燃料ハ一般ニ左ノ二三種ヲ使用スルモノナリ

一、松割木、一、樫割木、一、雜木

價格一定スルコト更ニナク平均五貫目十五錢ノ程度ナルモ近時非常ニ騰貴シタルヲ以テ五貫目十七八錢ニ至リ鹽業家ノ困難ハ一層其度ヲ増スノミナルカ當地方ニテハ一般如何ナル割木ニテモ賣買上ノ名稱ヲ一升何程ト云フヲ通例トナス此一升ト云フハ割木ノ長サ二尺七寸高サ三尺中六尺ニ積ミ上ケタルモノニテ凡ソ重量三百貫目内外ナルモノナリほんびトハ充分乾燥セシモノヲ云ヒ其他七分枯レハ八分枯レノ名稱アリ一般相場トシテハ五貫目十五錢ハ現今ニ於ケル平均價格トス

八 一釜ニ使用スル鹹水容量

凡ソ比重二十度ノモノ三斗九升ヲ入レ通例苦汁ノ滴下充分ニテ煎熬後三日間以上ヲ經過スルトキハ二等鹽ヲ產出シ一釜ヨリ得ル製鹽ノ量ハ平均二十七斤ニシテ是レカ燃料トシテハ充分節約スルモ十五錢ヲ要

シ稍鹹水ノ稀薄ナルトキハ一釜即チ三斗九升ヲ煎熬シ終ル迄ニハ燃料二十錢ヲ要シ其產鹽量ハ二十三斤ニシテ到底收支相償ハサルコトアリ

九 煎熬ニ用フル各種石炭混合ノ割合

該當事項ナシ

十 鹹水濾過裝置

該當事項ナシ

十一 同上 鹹水煎熬ニ要スル人夫賃銀等

未詳

十二 一晝夜ニ煎熬ヲ終ル釜數

一晝夜ニハ四釜即チ鹹水ノ一石五斗六升ヲ焚キ上ケ產鹽百八斤ヲ得焚上後苦汁ノ滴下充分ナルトキハ平均二等鹽ヲ得焚上後數週間ヲ經過スルトキハ一等鹽タルコトアレトモ二等鹽多大ナリトス尤モ初釜ニ

於テハ鐵分鹽分ニ附着シ其色褐色ヲ帶ヒテ其一釜ノミハ特ニ四等五等鹽タルコトヲ免レス

十三 一戸前ヨリ得ル製鹽總量

未詳

十四 居出シ場ノ構造

該當事項ナシ

十五 煎熬ニ關スル操作及方法

當管内ハ總テ眞鹽焚ニナスカ煎熬ニ關スル作業中最モ欠點ト認ムヘキハ混濁セル鹹

水ヲ濾過セス幾分カ清澄ト認ムルモノヲ荷桶ニ入レ之ヲ結晶釜ニ送ルヲ以テ焚上後色碎純良ナラス泥色ヲ帶ヒ又温メ釜ノ裝置ナキ爲一釜ノ煎熬ヲ終レハ直チニ此レニ冷鹹水ヲ注入スルヲ以テ釜ノ熱ハ冷鹹水ノ爲メ直チニ奪ハレテ更ニ釜ヲシテ以上ノ熱度迄ニ達セシムルニハ多量ノ燃料ヲ要シ其損害頗ル大ナリ煎熬中ハ絶ヘスおこしヲ以テ釜ノ底部ニ鹽分ノ密着セサル様攪拌シツ、加熱シ殆ント鹹水ノ殘量ヲ認メ得サル程度ニ於テ加熱ヲ止メ直チニたれず上ニ搔キ上ケ苦汁ノ滴下

ヲ促カスモノナリ

十六 釜、竈及燃料ノ變遷

未詳

十七 煎熬ニ關スル其他事項

該當事項ナシ

十八 一ケ年間平均煎熬日數

百八十日

十九 一ケ年間平均收鹽量

千九百五十斤トス

二十 一ケ年間ニ於ケル煎熬總費用

八百七圓ニシテ採鹹費用トシテハ別ニ計フヘキモノナシ

二十一 從來平ニ於ケル鹽田一軒前ニ於ケル收支計算表左ノ如シ

明治三十六年度製鹽損益表

三十七年度製鹽損益表

收支科目	金額	備	考
收入			
鹽代價	二二〇〇〇 ^円	製鹽石數四十石、真鹽一升三錢宛	
計	三、五〇〇	一荷即チ二斗五升ヲ平均一、荷七錢宛	
支出			
燃料	三六、七五〇	一釜ニ對シ九錢宛	
鹽田及ヒ釜屋器具修繕材料	一、五〇〇		
計	三八、二五〇		
差引純益	八四、七五〇		
收入			
鹽代價	二四、二〇〇 ^円	鹽製石數四十一石四斗、真鹽一升三錢替	
計	四、〇三三	一荷二斗五升平均七錢ノ割合	
支出			
燃料	三九、六〇〇	燃料一釜ニ對シテ十一錢當	
鹽田及ヒ釜屋器具修繕材料	一、五〇〇		
計	四一、一〇〇		
差引純益	八七、一三三		

二十二 其他採鹹煎熬ノ方法釜、竈其他ニ關シ進歩シタル點及改良案

煎熬ノ方法中改良ノ手段トシテ温メ釜ヲ經テ

結晶釜ニ入ル、ハ燃料ニ於テ消費量ヲ減シ焚上時間ヲ短縮スルヲ得一日ノ焚上ケ釜數ヲ多カラシムルハ當然ニシテ又鹹水ヲ濾過シテ後煎熬スルトキハ灰色ヲ呈スル鹽ヲ產出スルコトナク純白ナルモノヲ得ヘシ竈ニ付テハ現今使用ノ物ノ後部ニ煙筒ヲ附シ竈ヲシテ釜ノ掛カルヘキ所ハ下部ヨリ大ナラシメ下部ハ上部ヨリ小ナラシムルヲ要シ竈ノ火口ヲ充分下方ニ向

ハシムルトキハ同一燃料ヲ使用スルモ其温度ニ於テハ効果大ナルヘシ

第四章 製鹽及副産物種類用途

一 眞鹽、差鹽ノ別

當所管内製鹽ハ總テ眞鹽ニシテ差鹽ハ其ノ痕跡タニ認メス

二 鹽ノ理化學的性質

トシテハ鹽化曹達、鹽化加里、碳酸苦土、硫酸苦土、硫酸曹達等ヲ含ミ色澤ハ一般ニ純白色ヲ呈シ結晶ハ概シテ小ニシテ不同ナク四角形ヲ示ス

三 鹽ノ一般主要用途

ハ第一食用品トシテ味噌、醬油、漬物、魚類ノ鹽藏用其他ハ撰種用、肥料用等トス

四 鹽ノ各等級ニ於ケル一升ノ容量ニ對シテノ重量左ノ如シ

一等鹽	二六〇 ^々	四等鹽	二七五 ^々
二等鹽	二六五	五等鹽	二八〇
三等鹽	二七〇		

五 苦汁ノ用途

ニ用ユルノミナリ

大 其利用法總テ肥料ニ供シ其ノ利用ニ於テハ豆腐製造用ニ使用シ或ハ石灰ヲ以テ敵キヲナス場合

七 苦汁生産量

苦汁ハ一ケ年間ニ鹽田一戸前ニ於テ十二三石ヲ以テ普通トス

八 苦汁ノ貯藏

苦汁ヲ貯藏スルニハ四五石ヲ入ルヘキ桶ヲ土中ニ埋メ置キ是ニ流シ込ム

九 苦汁ノ價

苦汁ノ賣買價格ハ時期ニ由テ大差アレトモ平均スルトキハ一荷(一斗五升)七錢即チ一石ニ二十八錢ノ割合ニ相當スルモ多クハ自家用肥料トシテ使用スルヲ以テ賣買ヲ行フ者尠シ

十 苦汁ノ運搬

モ鹹水運搬ト更ニ異ナルコトナク荷桶ニテ人肩ニ由テ時々運送サルヘキモノトス

十一 苦汁ヨリ生スル副産物ノ名稱及用途、價額

該當事項ナシ

十二 副産物ノ種類及用途

該當事項ナシ

十三 副産物ノ價格及販路

該當事項ナシ

十四 鼠鹽、かいさき鹽泥鹽居出鹽等粗惡鹽ノ産額、用途、價格等

該當事項ナシ

第五章 鹽ノ包裝及秤量

- 一 包裝鹽ノ數量 從來當管内ニテハ鹽ヲ包裝ヲナシテ賣買ヲ行ヒタルコトナク總テ撒鹽ニテ賣買ヲ行ヒシヲ以テ
- 一 包裝鹽ノ容量、重量等記載スヘキ事柄ナク從テ包裝形狀、價格、包裝ニ附スル記號等記述スヘキモノアルナシ
- 七 秤量器 トシテハ通例ノ一升掛ヲ用ヒ一升ト稱スルハ盛升ヲ云フモノニシテ掛掛ヲ用ヒタルコトナシ

第六章 貯藏方法

- 一 倉庫 從來當管内製鹽家ニハ鹽ヲ貯藏スルモノナク焚上ケタルモノハ直チニ撒鹽トシテ市場ニ行商スルヲ以テ倉庫等ハ是ナク其他貯藏ニ關シテ記載スヘキモノナシ

第七章 鹽ノ販賣

- 一、二 從來ノ販賣法及鹽ヲ販賣スル船頭ノ習慣等 從來鹽ノ販賣方法トシテ製造ハ各自ニ得意ヲ設ケ置キ焚上ケ後一日或ハ二日ヲ經過スルトキハ撒鹽ニテ行商スルヲ以テ目的タリシカ代價ハ總テ現金賣渡シニ限リシト雖モ内ニハ米、麥、大豆等ト交換セシ習慣ヲ有スレトモ漸次其ノ風習モ改良セラレ現金賣買トハナレリ故ニ船ヲ以テ鹽ヲ運搬スル如キハ稀ナレトモ時トシテハ和船ニ托シ甲ヨリ乙ニ送ルカ如キ事アリ是等ハ總テ一荷ニ對シ壹錢内外ノ運賃ヲ仕拂ヒタルモノナリ
- 三 從來鹽ノ販路 タルヤ一定セサルモ例年十二月末ヨリ一二月ノ間ニ於テ漁業盛ナルトキハ通例一升三錢ノ割合ヲ以テ多量ノ鹽ヲ注文スル事アルモ是等ハ更ニ確實ノ注文ナラス漁獲少數ナリト認ムルトキハ使用ノ目的ヲ果ス能ハサル故從テ其ノ注文モ少量タルヲ免レス

- 四 鹽商カ資金ヲ鹽業者ニ融通スルコト 該當事項ナシ

- 五 從來ノ小賣價格 一升ニ對シ三十五年度貳錢七厘 三十六年度參錢貳厘

- 六 鹽價ノ定メ方 該當事項ナシ

- 七 販賣ノ季節 ト云フヘキモノナク降雨少ナキ年ハ採鹽量多ク隨テ販賣モ盛ナリト雖販賣季節ト認ムルハ十一月前後ニ至リ味噌、醬油、漬物等ニ用フル時期ニ於テ稍々販賣盛ナリ

- 八 俵拔キ検査 該當事項ナシ

- 九 歩減ノ處置 記スヘキモノナシ

十 鹹水賣買ノ有無

十一 鹹水見越賣ノ有無

該當事項ナシ

該當事項ナシ

第八章 鹽運搬方法

第九章 地主ト小作人トノ關係

第十章 組合

第十一章 試驗

第十二章 輸出入

第十三章 鹽田以外ノ製鹽

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

以上該當事項ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽濱ノ最良ナル者一反歩ニ付地價壹圓五拾錢時價百圓附近、畑地ハ地價拾五圓ニシテ時價百五拾圓、下等ナル者ハ一反歩ノ地價八拾錢、時價八圓其附近ノ畑地ハ壹圓五拾錢ノ地價ヲ有シ七圓乃至拾圓ニ賣買ス要スルニ住屋トノ距離ノ遠近ニ依リ價格ニ高下アルモノ、如シ市村、三里村ニ於テハ鹽製家自ラ採鹹地ヲ所有スルモ其他ハ何モ部落ノ共有地(廢藩)ニシテ採鹹者ハ一ケ年使用料トシテ一濱(五畝)ニ付參給錢ヲ支辨ス其貸借方法ハ各部落ニ濱惣代ナルモノ兩三名アリテ舊年頭ニ於テ濱使用者(一濱ハ甲ニ二濱ハ乙ニ貸與スルノ類)ヲ定ム之ヲ濱割ト稱ス各部落トモ貧者ヲ驅リテ之ニ就業セシムルモノニシテ假令ハ何某ハ不幸ニシテ所有ノ田畑ヲ賣却シ他ニ職業ナク生活困難ナリ或ハ某ノ家族ハ老幼者多數ニシテ糊口ニ窮セリ濱ノ割當ヲナスヘシト云フノ類ニシテ製鹽家ニ貧者ノ多キハ宜ナリト云フヘシ